

2012年度 学校評価報告書 (大阪聖母女学院中学校・高等学校)

学 校 目 標	決め細やかな教育と指導で、建学の精神である「愛と奉仕と正義」に基づく全人教育に力を注ぎ、一人ひとりの生徒を大切にします。
---------	--

重 点 目 標	1. 建学の精神に基づく特色ある教育の推進。 2. 学力の伸長と進路実績の伸長。 3. 学校の情報発信力の強化。
---------	--

学 校 自 己 評 価			
目 標		評 価	
番号	重点目標	具体的方策	取組の成果
1	建学の精神に基づく特色ある教育の推進	① 日々の祈りの時間。 ② 錬成会・ミサ・クリスマスセアンス・プチセアンス等の宗教行事への取り組み。 ③ ボランティア活動の推進により「奉仕の精神」の定着をはかる。	① 朝の祈りの時間で行われる祈りの前の導入の一言を、教員みなが、自分なりの思いを伝える形で実施した。 ② プチ・クリスマスセアンスでは生徒自ら司会をするなど、受身ではなく生徒一人ひとりが積極的に関わっていく方向が生まれてきた。 ③ 生徒にボランティアへの参加を広く呼びかけた結果、定期考査最終日を中心に幅広く生徒が参加した。
2	学力の向上と進路実績の伸長	① 国際力充実のため、英語で英語を学ぶ試みとして、中高生（英検準2級以上習得者）対象に月イングリッシュアワー（毎月曜日放課後90分）を創設した。 ② 昨年度に引き続き、高校カリキュラムの見直しをはかり、中高6年間を、効果的、効率的に学ぶ体制づくりを検討する ③ それに伴い、主に、高校生対象に行われる聖母ゼミナール（放課後講習）の内容の精選を検討する。 ④ 昨年に引き続き、中学生の夏・冬の休暇中に実施する自学教室を、また、下校時間後の居残り学習の時間を設定。	① イングリッシュアワーは中1から高IIIまで幅広い層の参加があり、英語づけになる中で、英語でものを考え、表現すること自然に行えるようになっていった。年度末のニュージーランドの語学研修に参加した生徒は、物怖じせず、かなり自由に話すことができた。 ② 次年度高校入学者から適用される新しいカリキュラムを作成し、中学生に対し次年度へ向けての説明会を行った。 ③ 聖母ゼミナールの内容の更なる見直しをし、次年度より実施時間の延長を行い、必要に応じて18:30まで実施できることとした。 ④ 中学生の自習教室は参加者が少人数にとどまったが、下校時間後の居残り学習はコンスタントに参加者が増えており、「学習時間が増えた」「計画的に、集中して学習する力が身についた」といった自学の習慣を身に着けるという所期の目的を達成した生徒が増えている。
3	学校の情報発信力の強化	① 学年会・懇談会等保護者が学校を訪れる機会をしっかりと確保し、保護者と教員（特に担任）との意思疎通を密にして、一層の連携強化をはかる。 ② HPの充実をはかり、学校の様々な活動に関する情報を広く伝える力を強化する。 ③ 内部小学校との連携を強め、小学校の児童・保護者への情報発信力を強化する。 ④ 今年も「桜さくら in 聖母」・プチ・クリスマスセアンスという、地域、受験生等幅広く本校のあり方を知っていただく企画を行った。	① 学年会後に茶話会を開くなど、保護者と教員の交流を深める取り組みを実施した。 ② 入試広報室の機能を強化し、HPの更新回数を増やす努力をした。 ③ 小学生と中高生が触れ合える機会として、クラブ交流を実施し、児童に中学・高校でのクラブ活動の技術の高さや、中高生の魅力を実感してもらった。また、小学校との連携の中で、児童の保護者のニーズの高い内容を広報することができた。 ④ 今年も例年通り、両企画とも、600人前後の来校者を迎えることができた。

学 校 関 係 者 評 価
学校関係者からの意見・要望・評価等
生徒・保護者・教員へのアンケートを行った。質問項目は以下のとおりである。 ①大阪聖母女学院はカトリックの精神に基づいた教育を行っている。 ②学校のきまりや方針に納得している。 ③学校は生徒の将来の生き方、進路について考える機会を十分設けている。 ④教員は生徒の将来の進路・生き方・悩みについての相談に、親身になって応えてくれている。 ⑤教員は熱心に授業を行い、生徒の学びたい気持ちに応えている。 ⑥小テストや宿題など、生徒が家庭学習で取り組む際の課題が十分出されている。 ⑦各教科で実施している小テストや再テスト、補習等は学力の定着に役立っている。 ⑧土曜日に実施している読書の時間は、生徒の読書習慣を身に着けるのに役立っている。 ⑨学校はタイ国際ボランティアや福祉施設でのボランティア等奉仕活動に参加する機会を設け、社会に貢献する心を育てている。 ⑩学校は、ネイティブによる英会話や授業、カナダ・ニュージーランドなど様々な語学研修を通じて、国際感覚の育成に努めている。 ⑪学校は生徒に言葉遣いや身だしなみなど社会生活に必要なマナーを教えている。 ⑫生徒は、体育祭や音楽祭・文化祭などの学校行事やクラブ活動を通じて、リーダーシップと協調性を育み成長している。 ⑬学校生活は楽しく充実している。 ⑭学校は開かれた学校づくりに向けて、適切な情報公開を行っている。 ⑮学校は設備・施設の安全管理、不審者の進入防止等、生徒が安全で安心な学校生活を送れるように努めている。 ⑯様々な機会を通じて、教諭との意思疎通の機会が十分持っている。 ⑰大阪聖母女学院に入学してよかった。
これらの各質問項目に、①「そう思う」②「どちらかといえばそう思う」③「どちらかといえばそう思わない」④「そう思わない」の選択肢で質問を行った。そのうち大多数の設問で、肯定的な①と②の回答比率が回答全体の80パーセント程度を上回ることができた。唯一7割をきっているのは「土曜日に実施している読書の時間は生徒の読書習慣を身に着けるのに役立っている」であるが、図書館のあり方、教科による読書指導のあり方など再検討する必要がある。また、①②の回答が80%程度を超えているといっても、そのほとんどが、①「そう思う」よりも、②「どちらかというそう思う」がという回答の比率のほうが多い。課題に対し、スピーディに対応していくことが必要である。